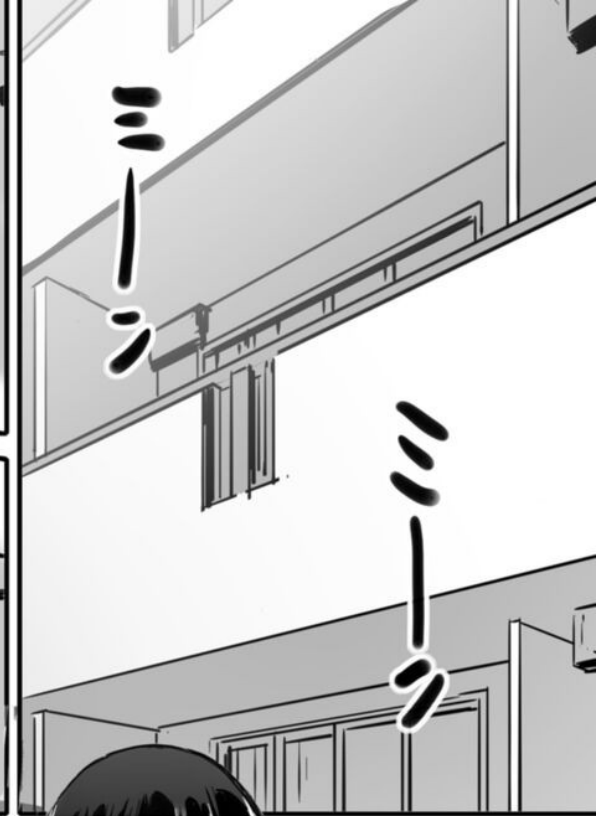


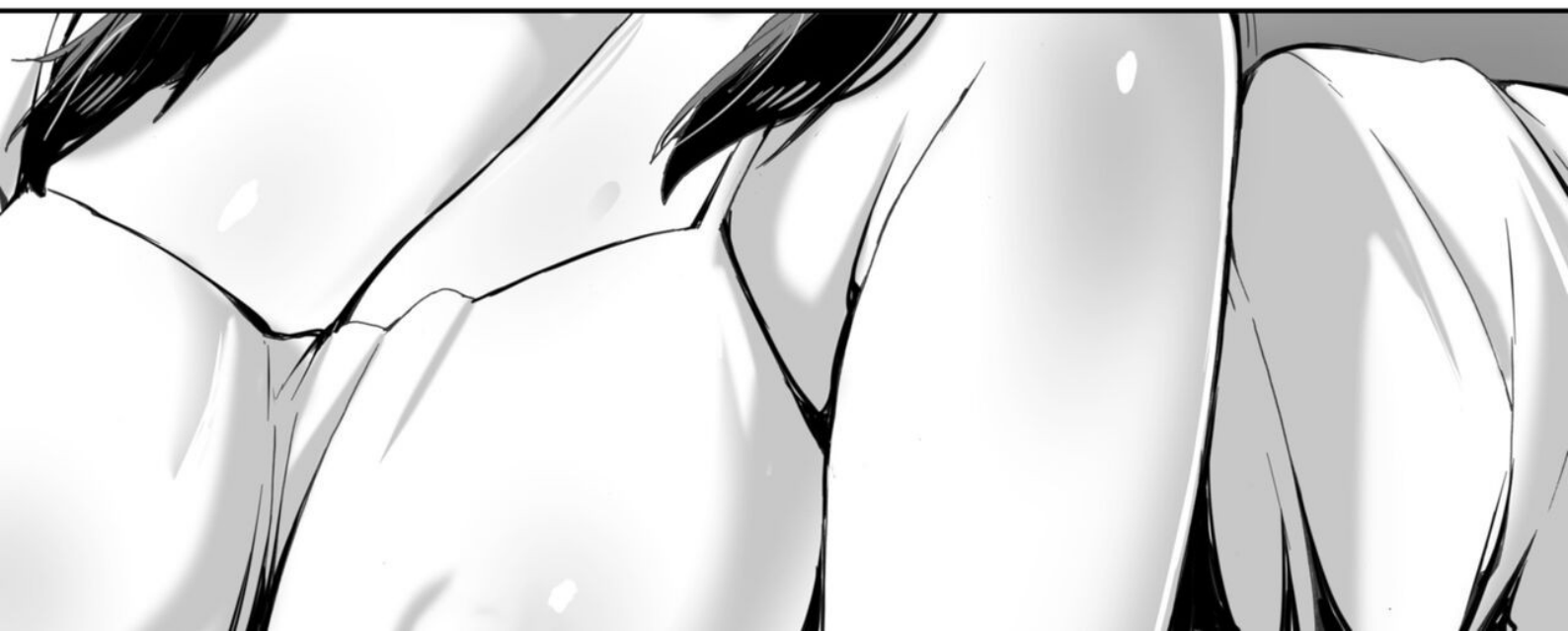


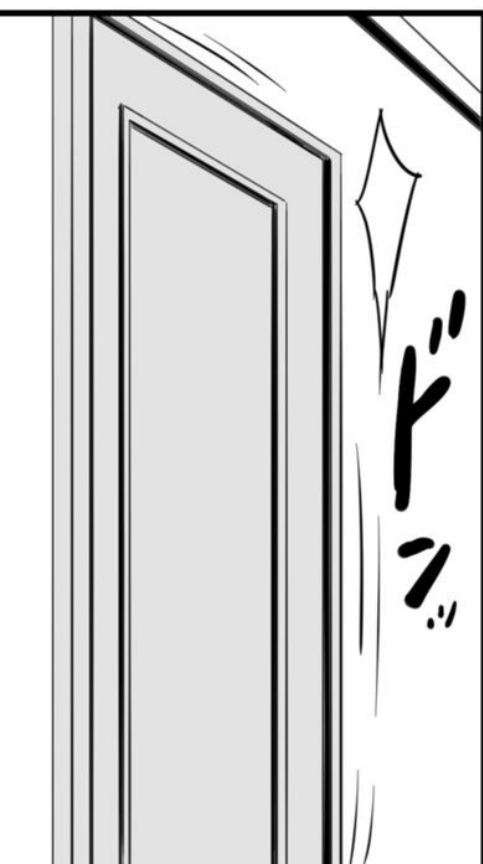
私は催眠
られてるから...



ねえねえ〜翔太〜

もう宿題をやめて
一緒に遊ぼうよ







反抗期かな



ああもう
どうしてこんなに
可愛くなくなっちゃったの

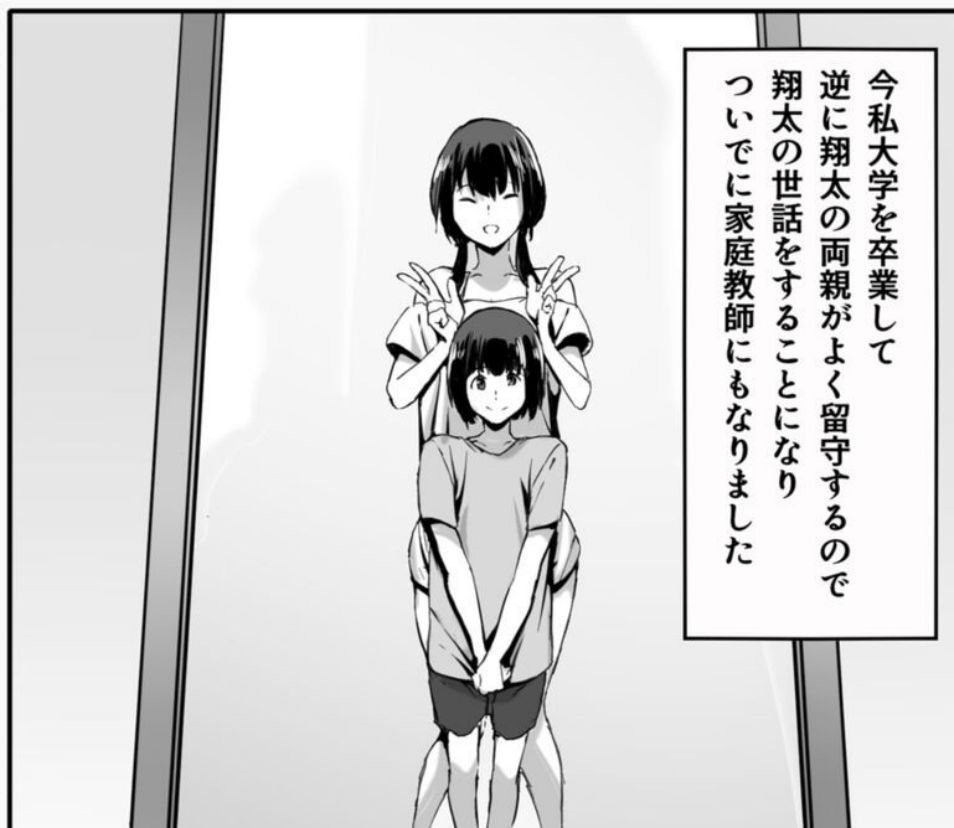


翔太は私の隣の部屋の子供です
両親がよく出張するので
翔太の両親に私の世話を
頼んでいました

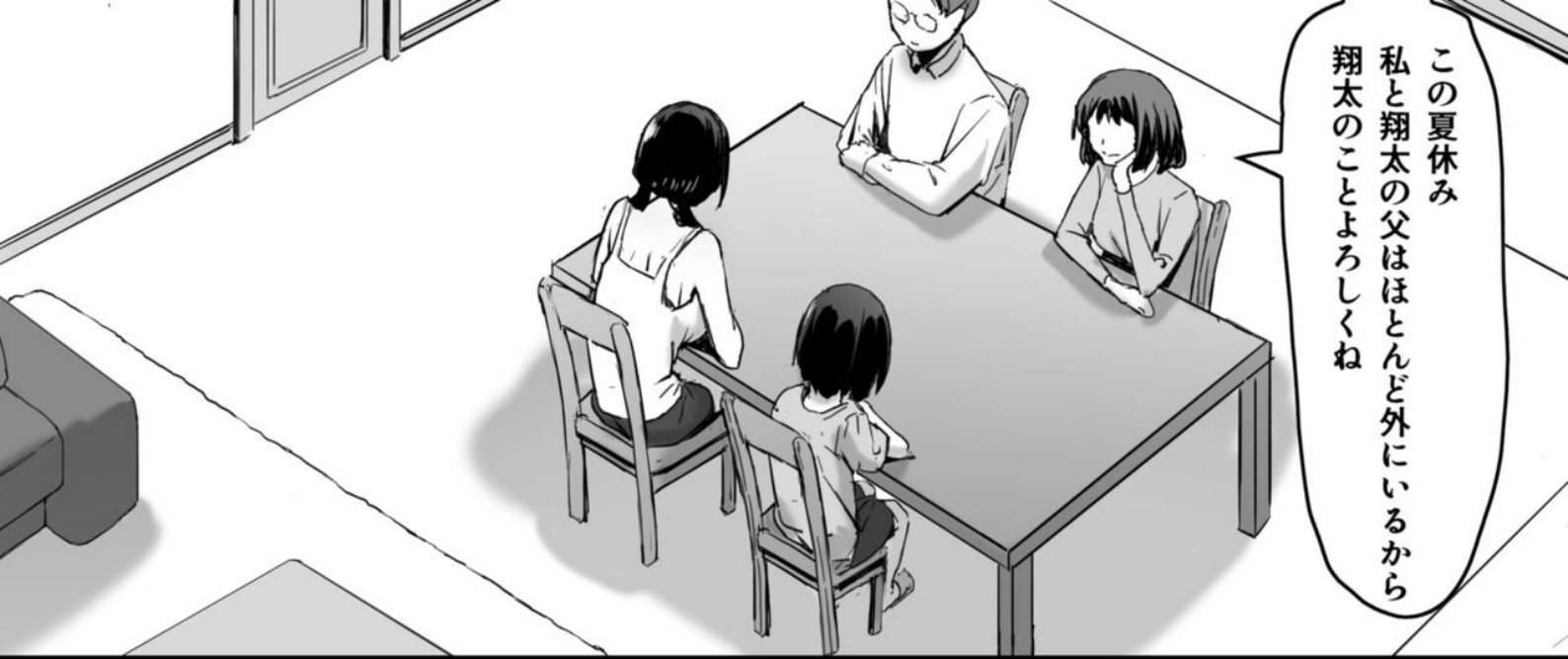
ここで過ごした時間
家よりも多く
翔太がまるで自分の弟の
ようでした



気がつけば
あの翔太も大きくなったな〜ふふ



今私大学を卒業して
逆に翔太の両親がよく留守するので
翔太の世話をすることになり
ついでに家庭教師にもなりました



この夏休み
私と翔太の父はほとんど外にいるから
翔太のことよろしくね



翔太春菜ちゃんの言う
ことをちゃんと聞いて

本当に安心できるわね



任せてください！

帰ってきた時には
ぼっちゃりとした翔太くんを
見せることを保証します



それで
夏休みが始まった



僕一人でも
大丈夫だよ



そんなことを言うから
まだ子供だね



三人ともわたし
一人をいじめ
なんて…酷いよ

YOU DIE



昔はそんなに活発だったのに
いつの間にこんなのに
なっちゃったのかな

ん…でもこの子もその
年齢だし…



翔太くん??

何か悩みがあったら
思い切って姉さんに
言ってね



もう好きな人がいるんでしょ
その年だし



何のこと？

大丈夫だよ〜
姉さんちゃんと分かってるから



うんうん〜
わかってる
わかってる？

何を言ってるんですか！



お〜当たったみたい



両親がいない貴重な
夏休みで
せっかく二人のみな
世界なのに私に
邪魔されちゃったよね〜



この反応だ〜
可愛い〜

なるほどなるほど〜
そんな時は姉さんが
手伝うよ〜



違ってば！

でも翔太の性格だとどう
やって
告白するかすら分からない
わね〜



今度こそ逃がさないよ

ハイ



また僕をいじめて



うーん…

言っでごらん…
好きな人ができたん
でしょう



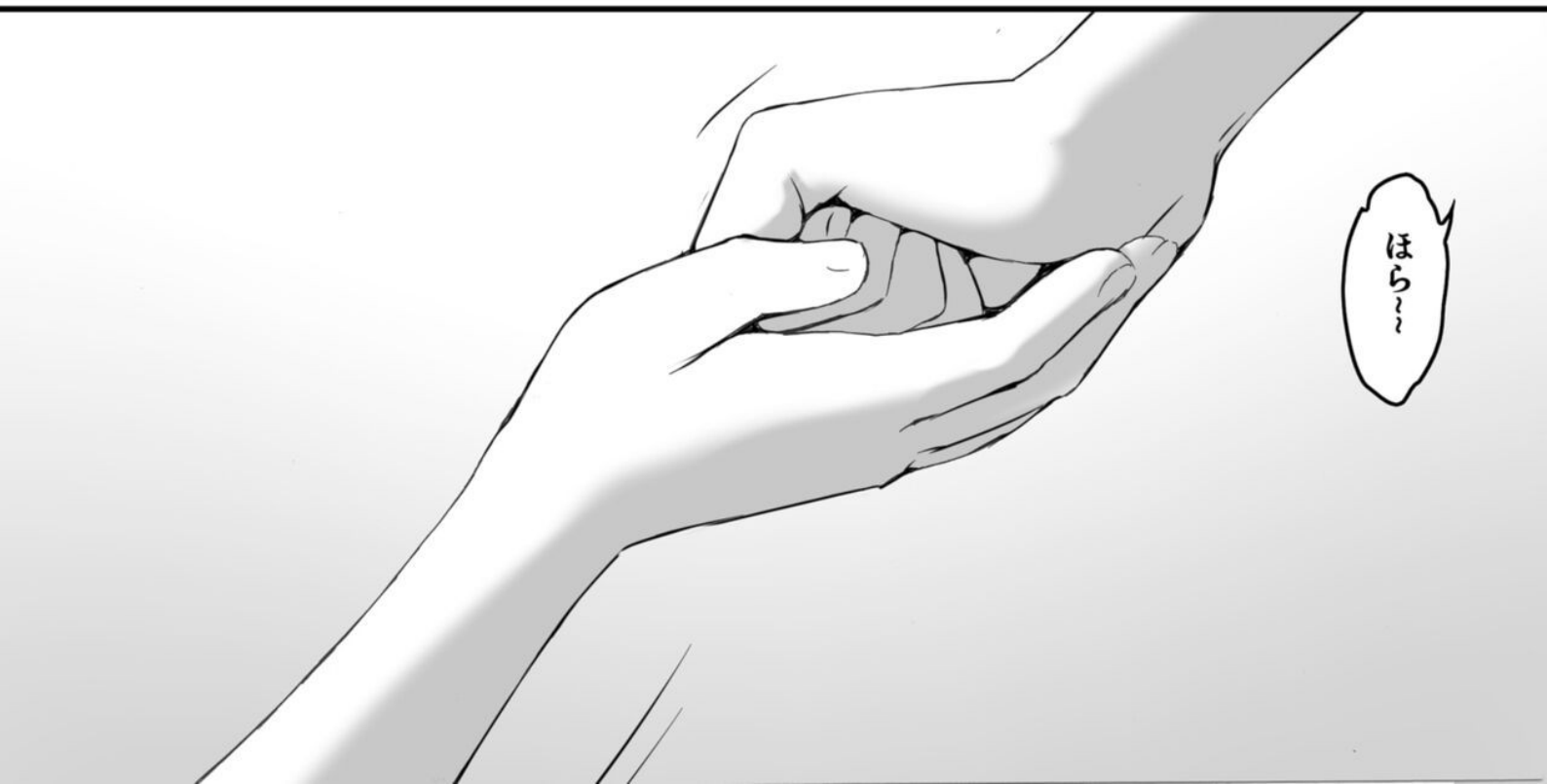
彼女が…絶対に自分のことを真剣に
見てこない…
自分を好きになるなんてあり得ない



でも…
絶対無理だよ…



ふふふ



これは何…

春菜姉…僕
真面目な話を
してるんだけど

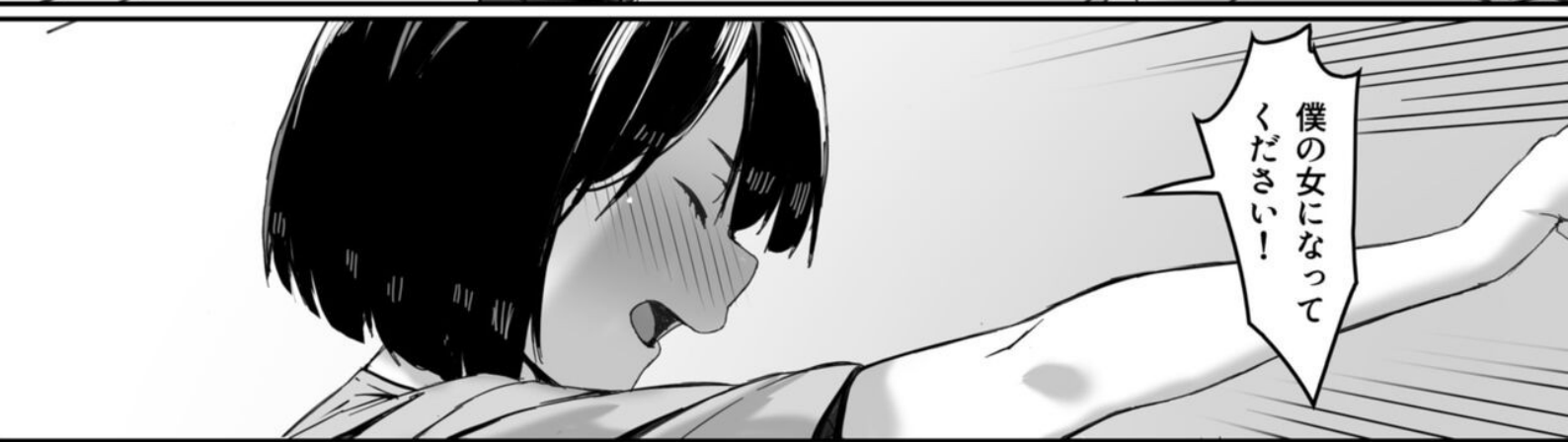
これはすごい宝物よ…
本当に相手を好きなら
相手をあなたの意志に
従わせることができるのよ

はあ…
そんなこと
ありえないよ

本当だよ…あら～
それは素敵な恋愛に
なるわよ（ウソ）

おおおおこの表情…！
決心するだみたい！
面白いことになりそうだ～

…姉さん…の…





翔太くん…まさか…
私に

けど…困った
でしょう



そんなに真剣に
勇気を出して…
もし私が冗談だと
言ったら



私の姉としての
威厳が…



分かった



…本当に効いてる！

よかった！
信じてよかった！

結局…子供だ…家族ごつこを
して遊んであげればいいだろう

それで…どう終わらせるか
考えてみよ…

「魔法は二時までだよ」とか…

ドキ

ドキ

それで…



ドキ
ドキ
ドキ

いきなりそこから！？

トロォ…



見せて…胸を！



でも…やっぱり男の子だからね…

断られないわ



だめだめ！
これはちょっと…

でも…翔太くん…
その期待の顔…
前のように…

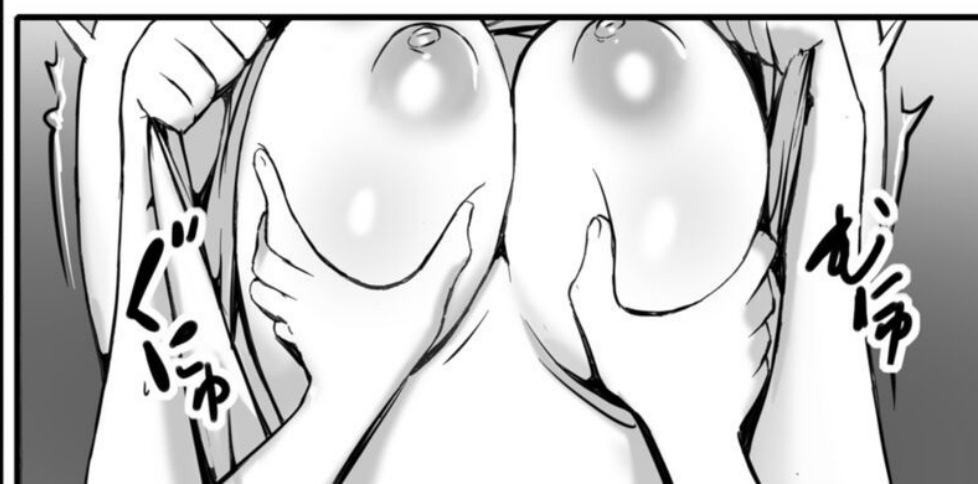
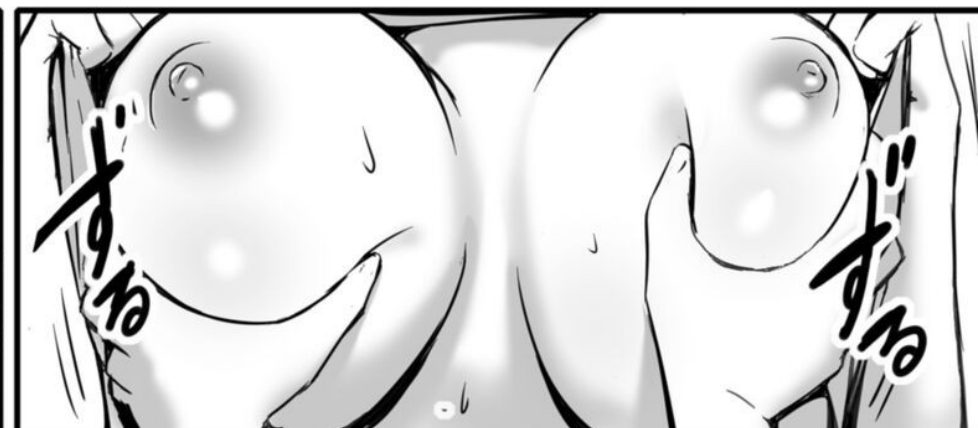
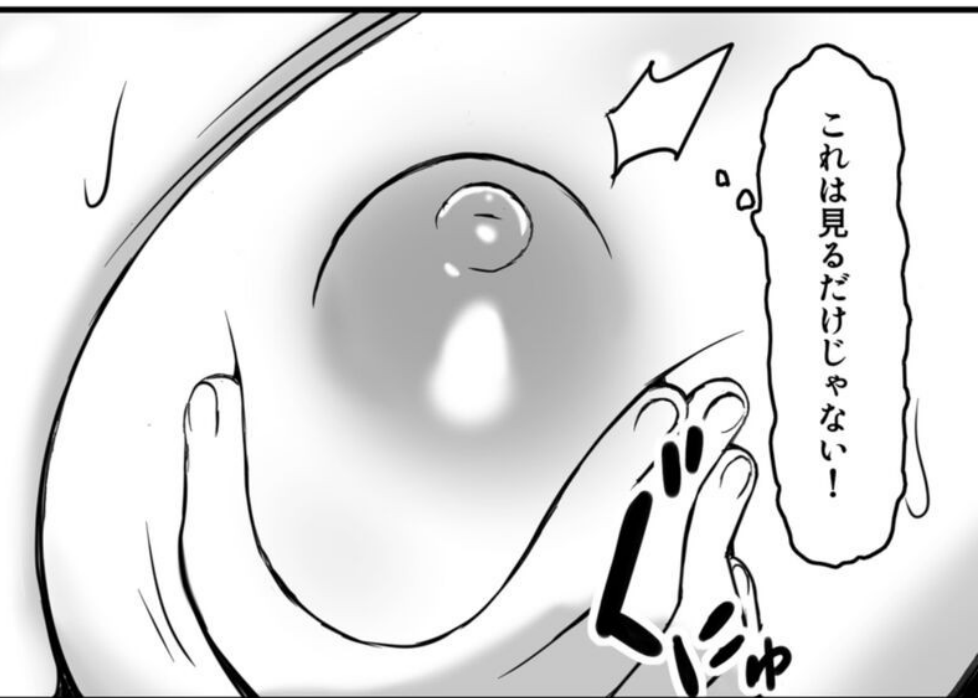


分かったわ

どうぞ



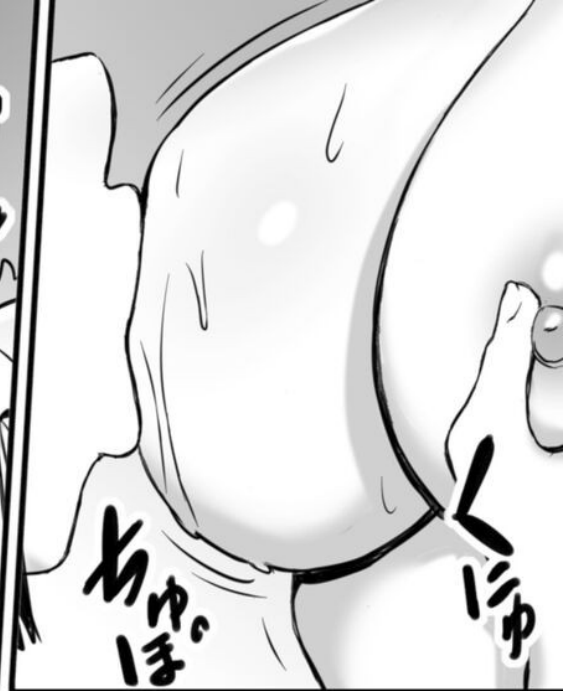
好奇心はきつとあるよね…
翔太くんなら…少しだけ…



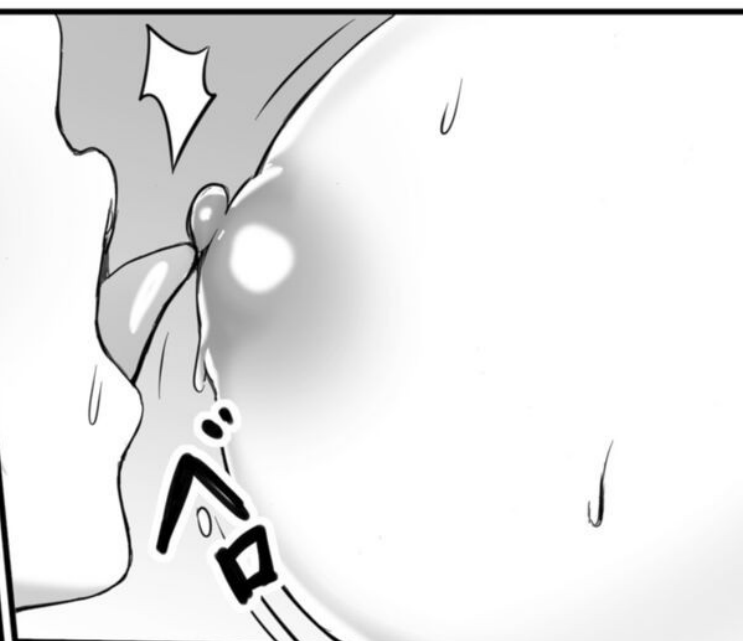




これは…やばい…
色々な意味で…!



これ以上だと…私が…



これ以上だと



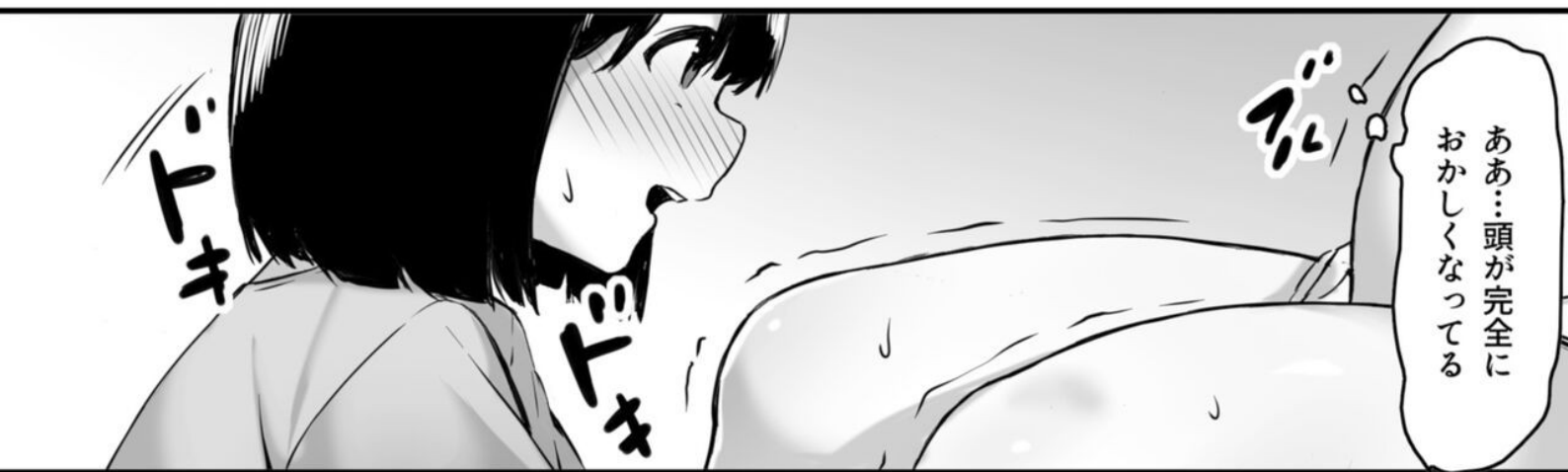
行っちゃうー!!



まさか子供にただ乳首を
弄られただけで絶頂に
達するなんて













僕の…一生に僕の女に
なってほしい!

この様子で告白されるの
はちよっと…でも…

ドキ

グイ



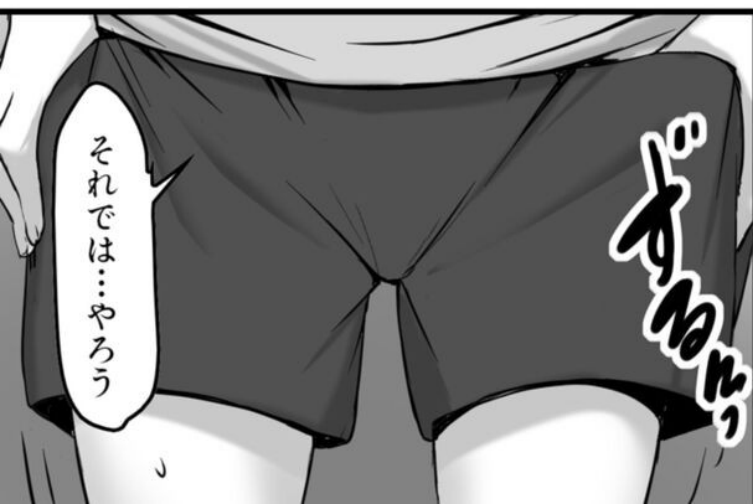
よかった!



ああ…この様子が…

断られるかよ…

ドキ



それでは…やろう

ドキ



わかった
今から私はあなたの女だよ

ドキ



これ…ウソ…
全然…子供が持つべきな
サイズ…ではない…



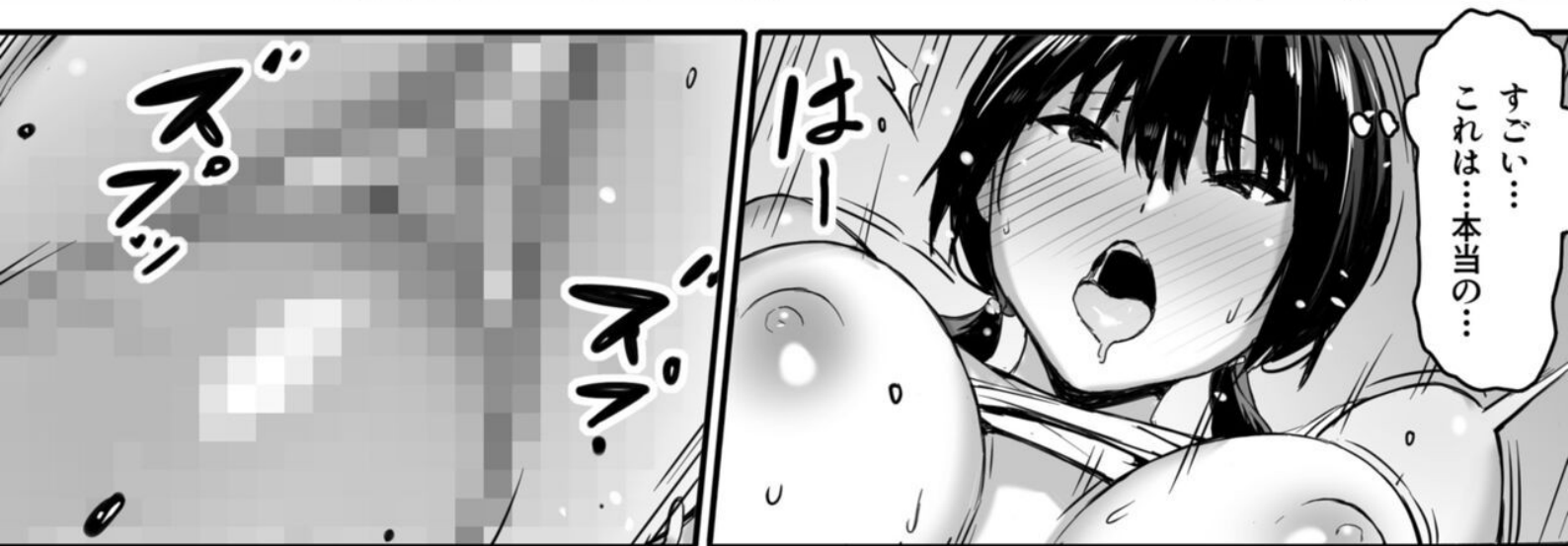
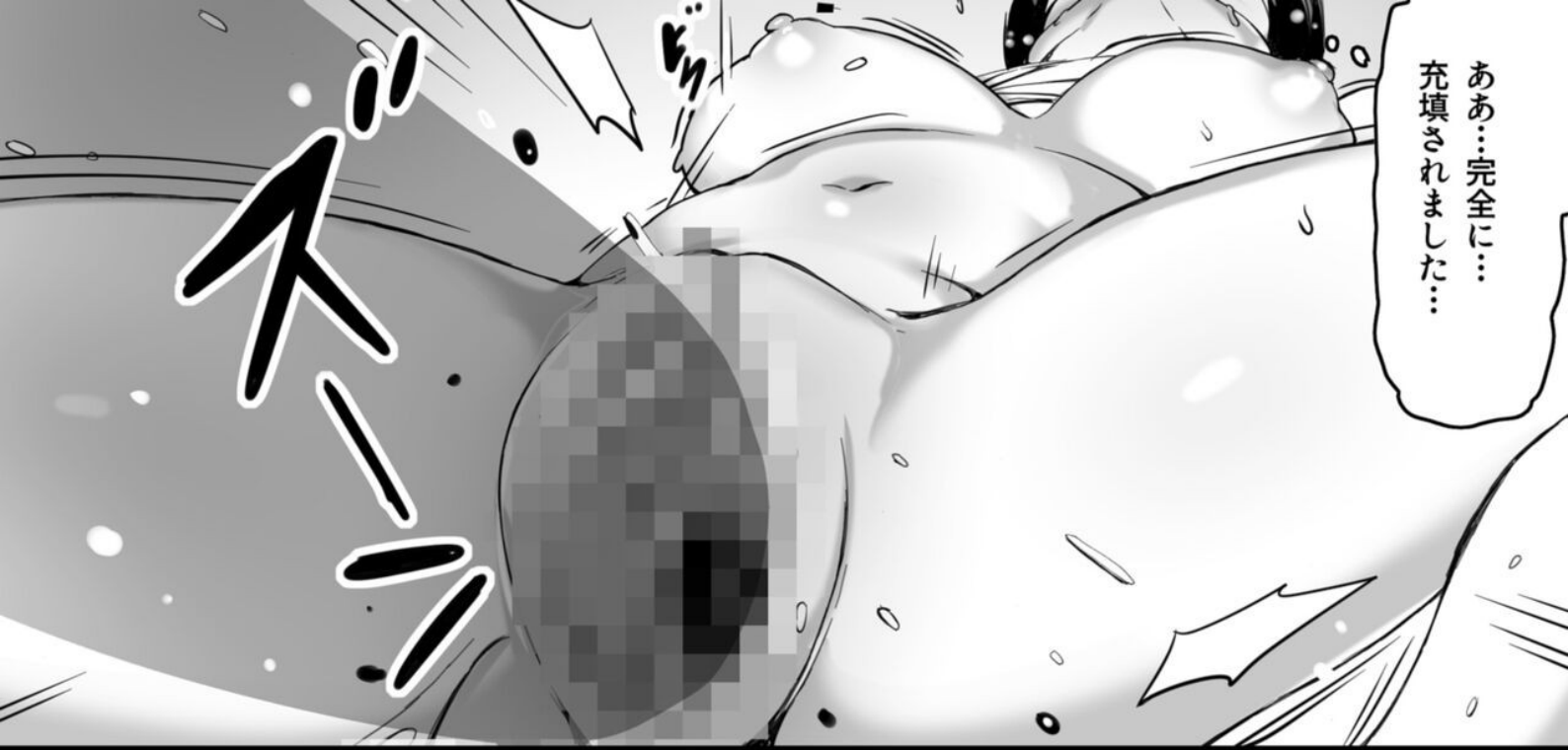
一緒にお風呂に入ったばかり…
絶対同じもの…ではない…



これを自分の中に入れたら…

にゅぷっ

ズ…



春菜姉さんが私のものだ！
絶対に他の人に渡さない！

はー

ああ…

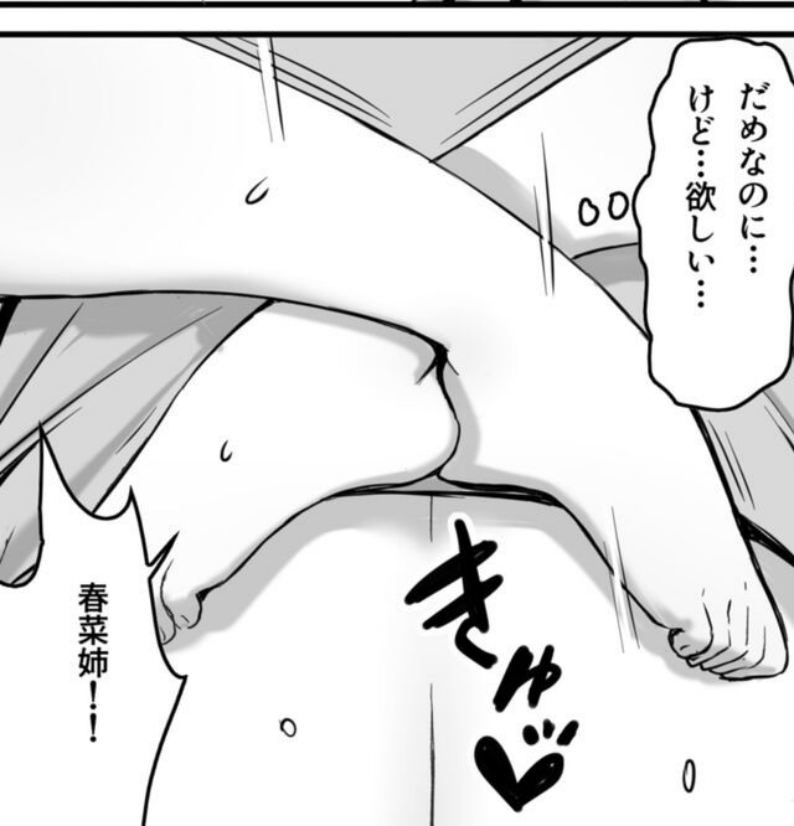
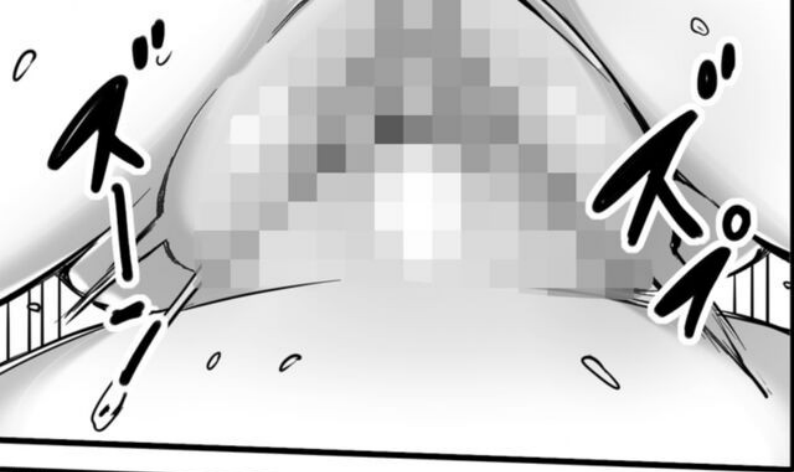
翔太がこんな風に
思ってるなんて…

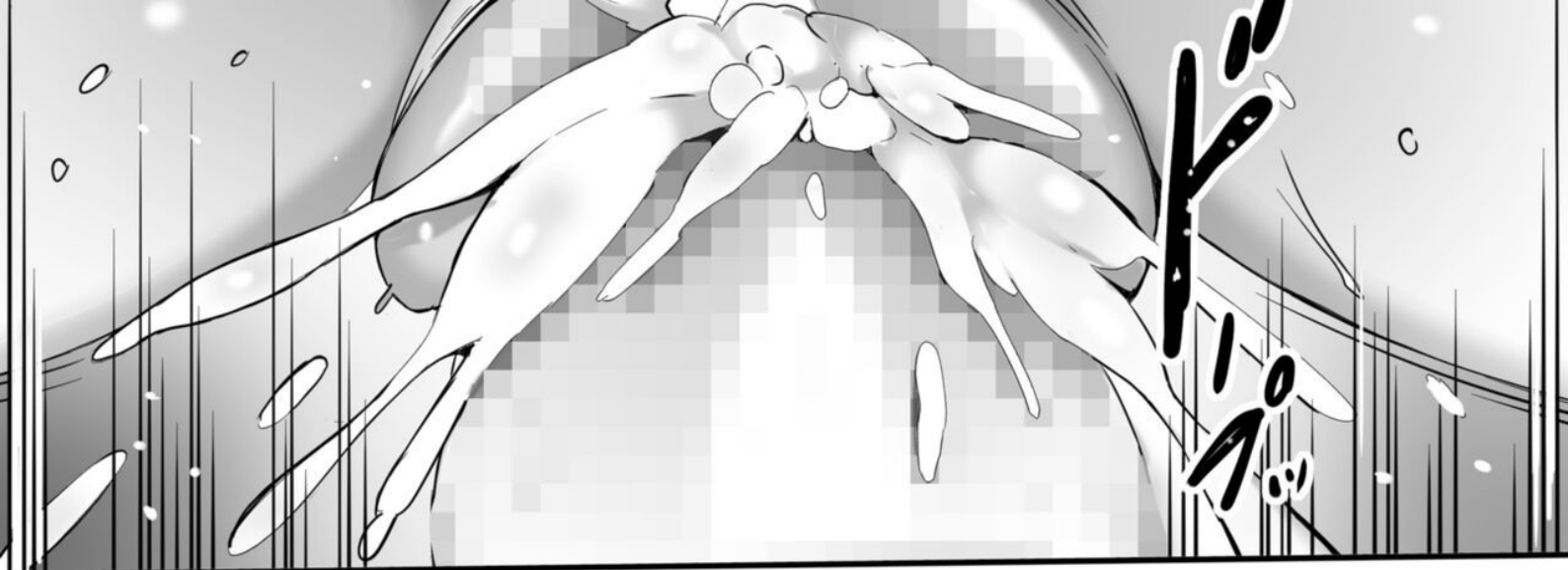
それに…すごい…

もし翔太をより喜ばせれば…

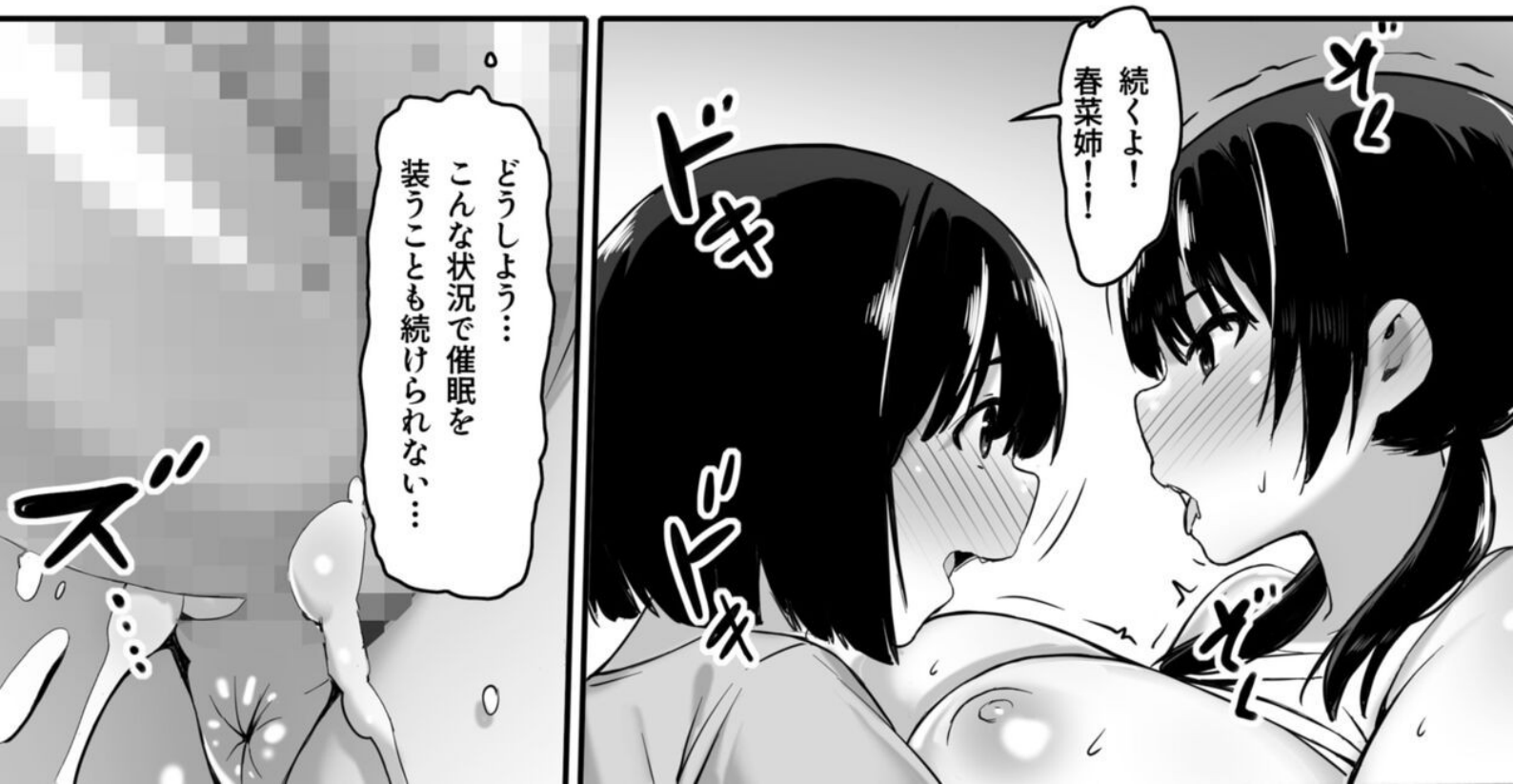
はい…私は翔太のものです…

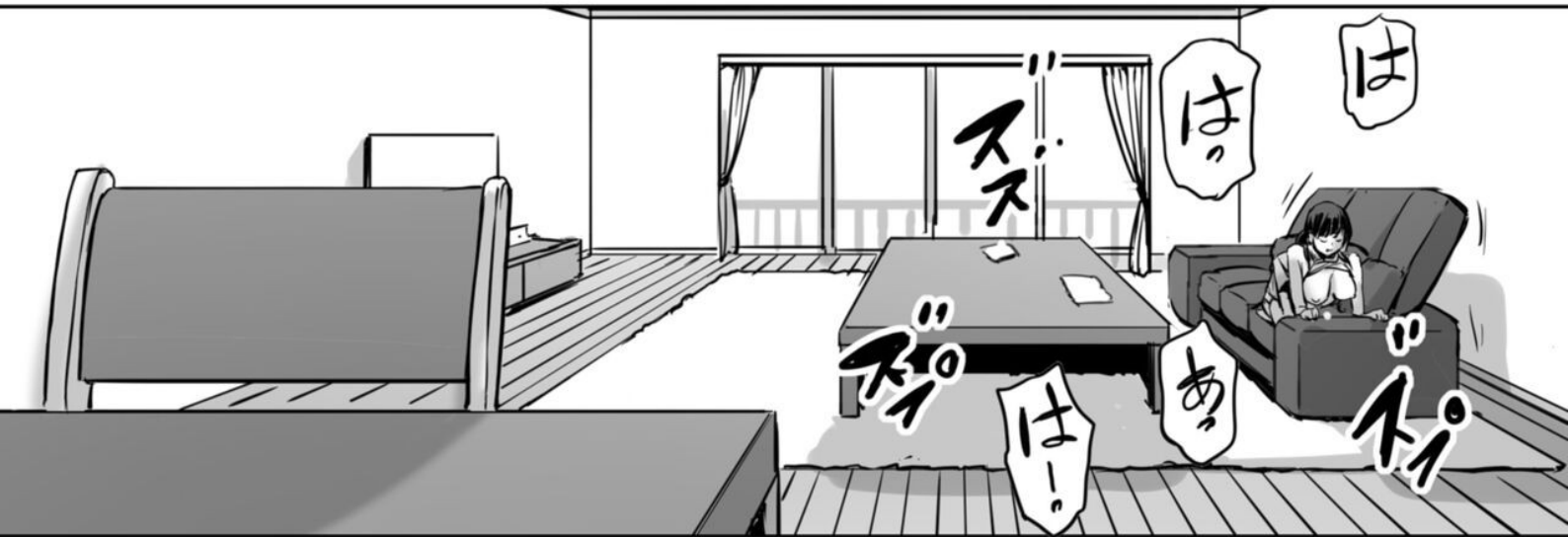
最も奥まで…続けて…

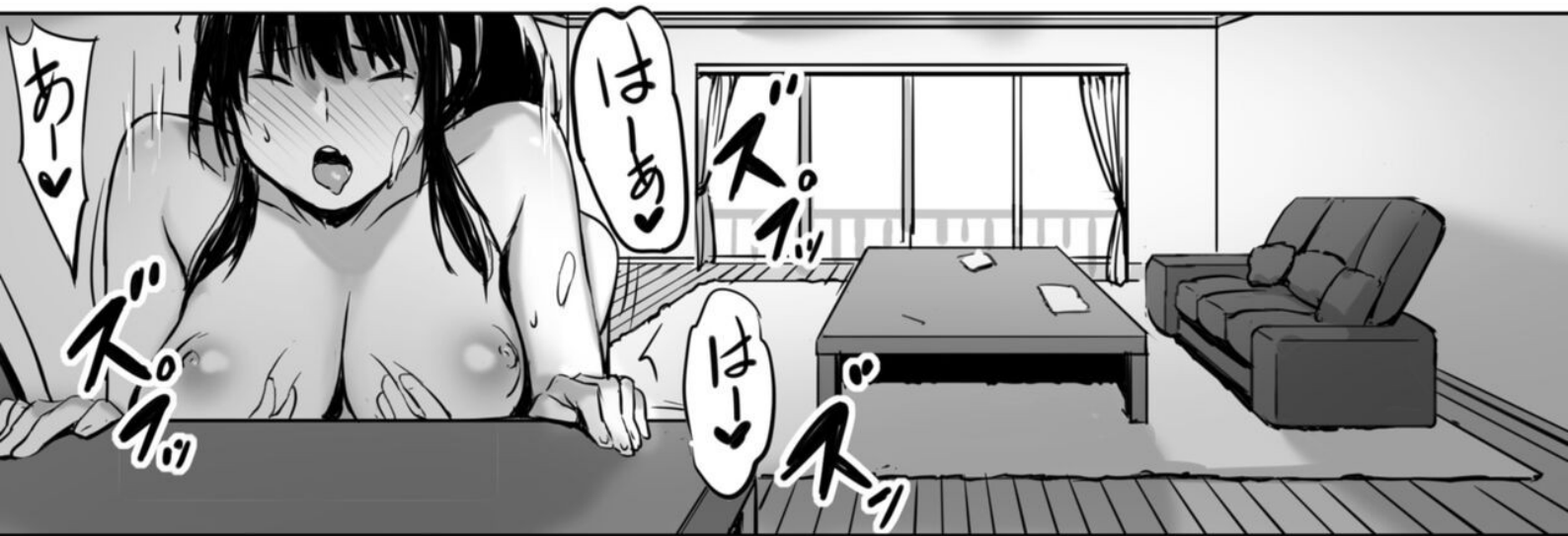




















それもいいね
夢のように過ぎ去ったと思う



やはりまだ子供か
短い間に片づけて...
やるね...こいつ



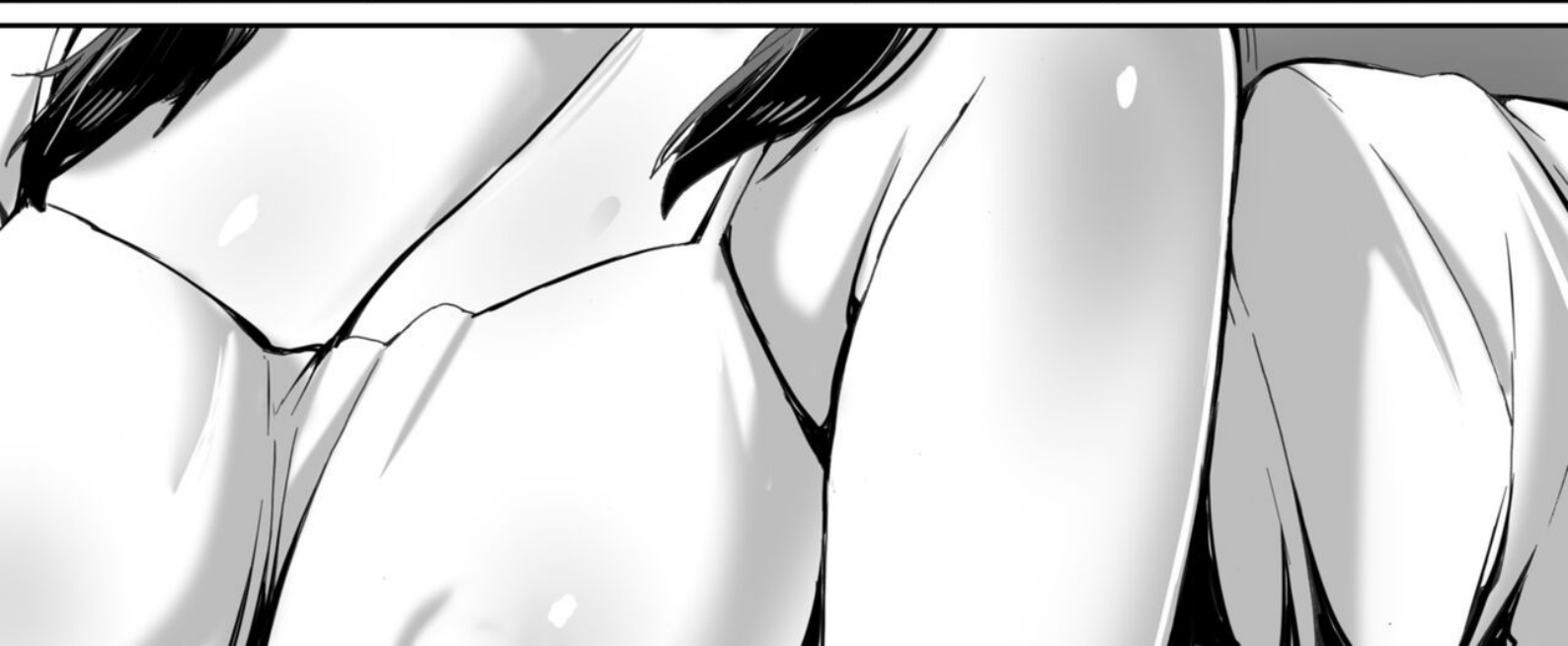
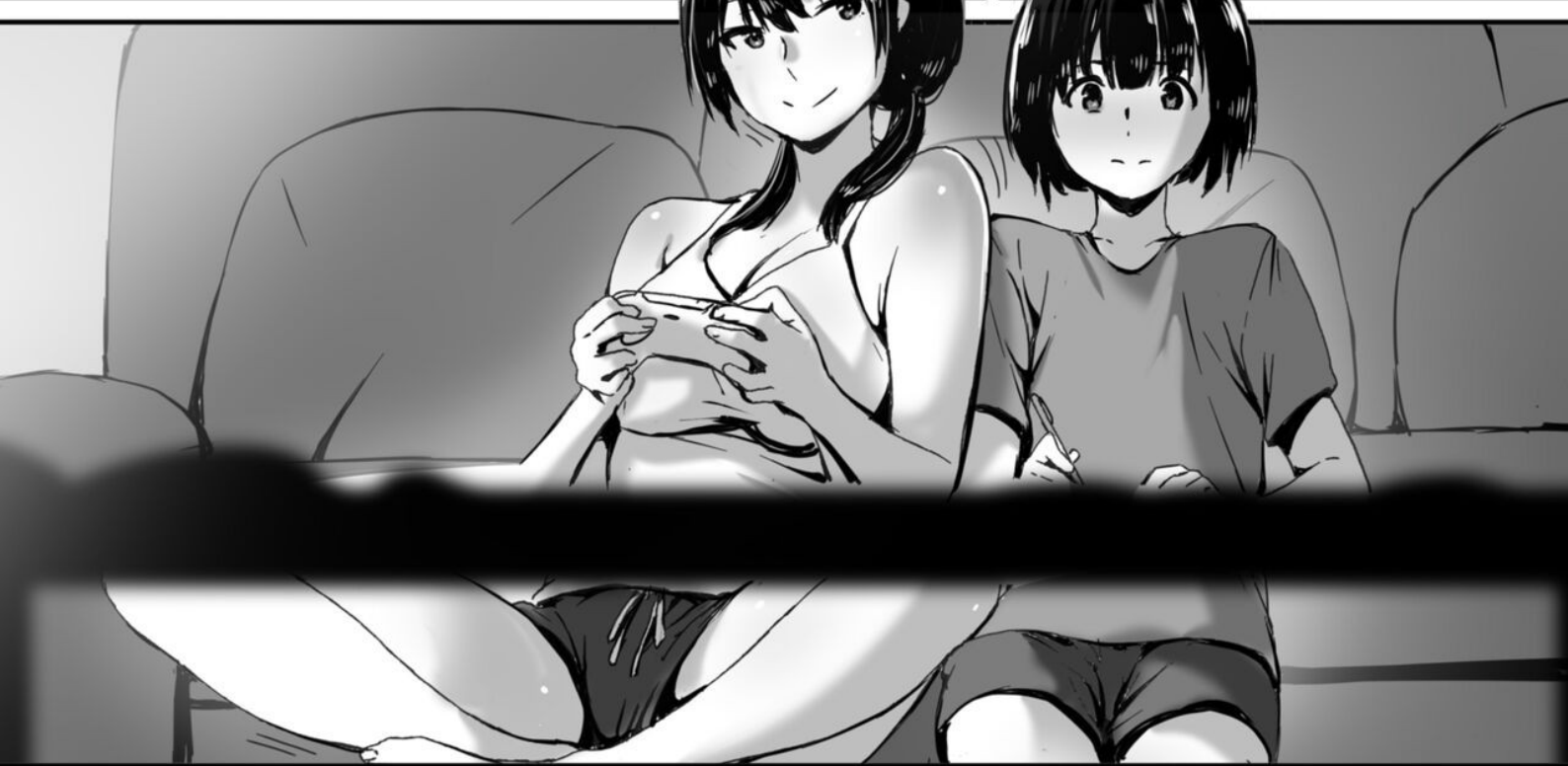
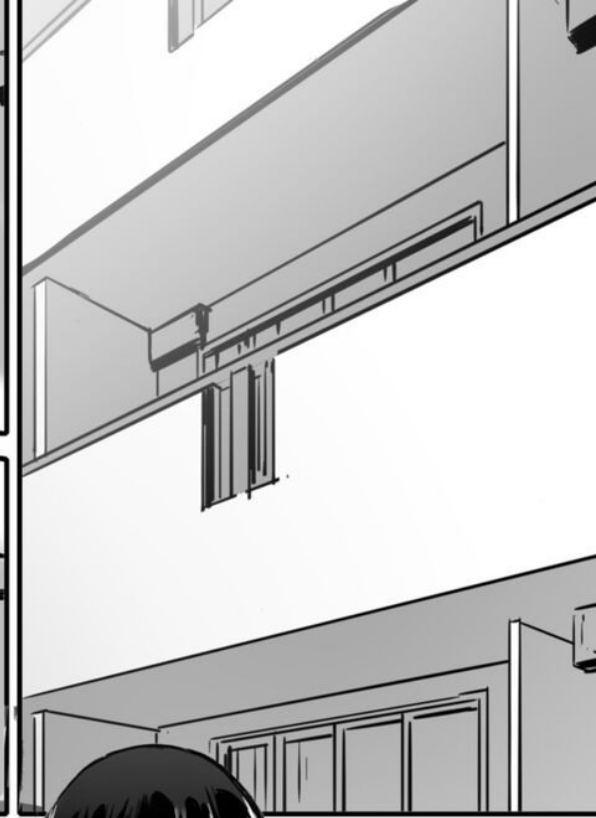
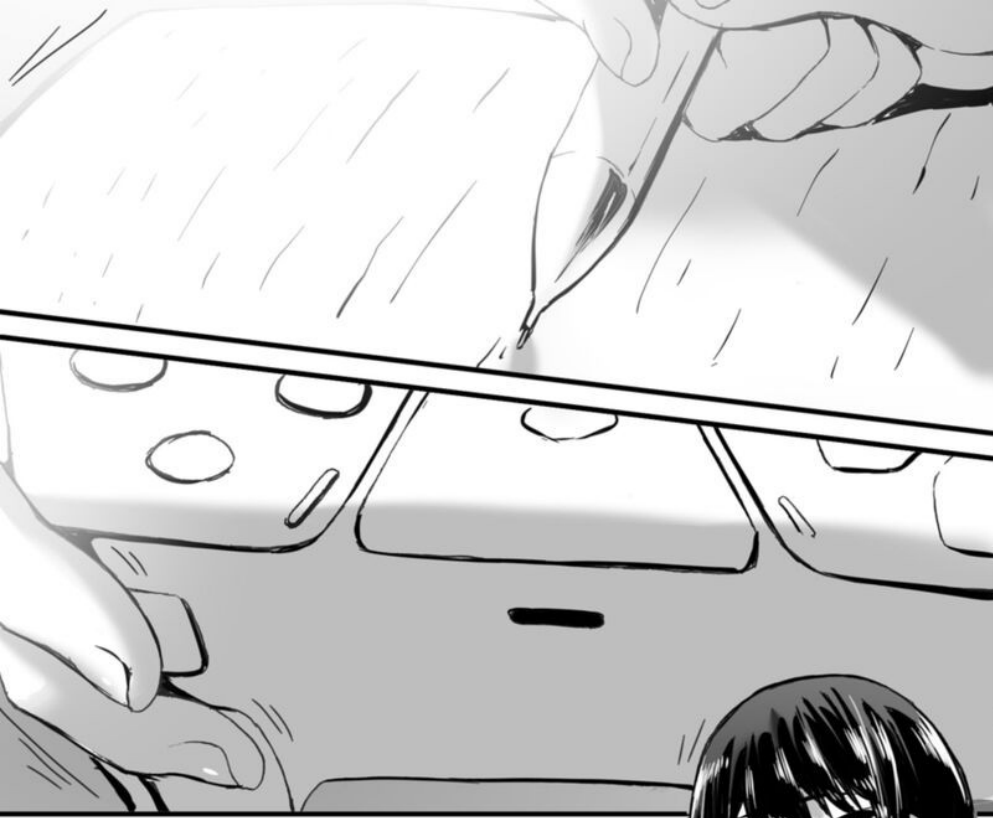
起きたら

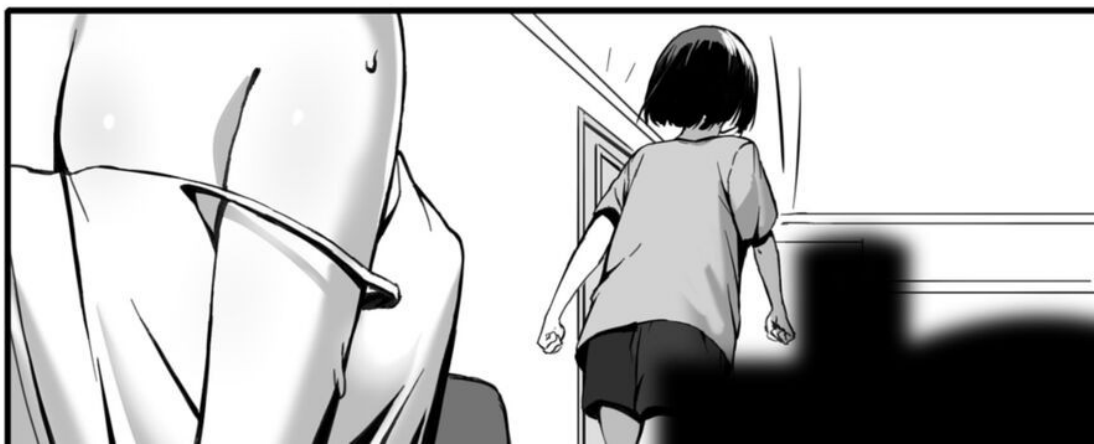
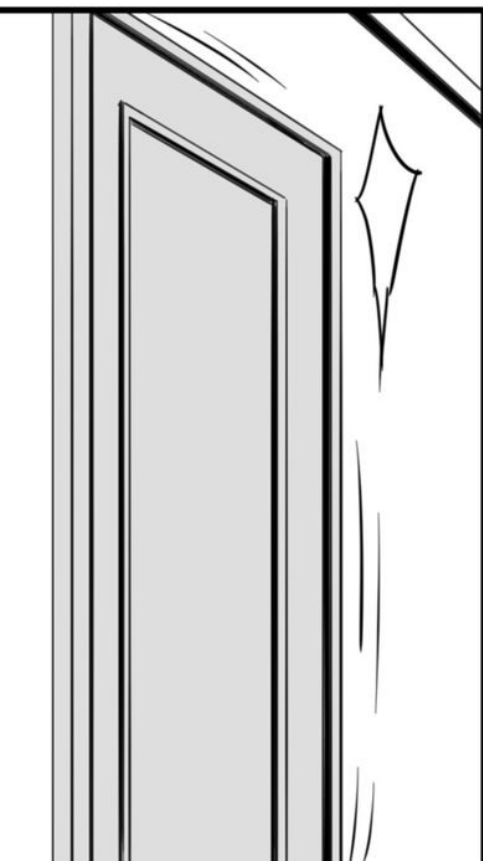
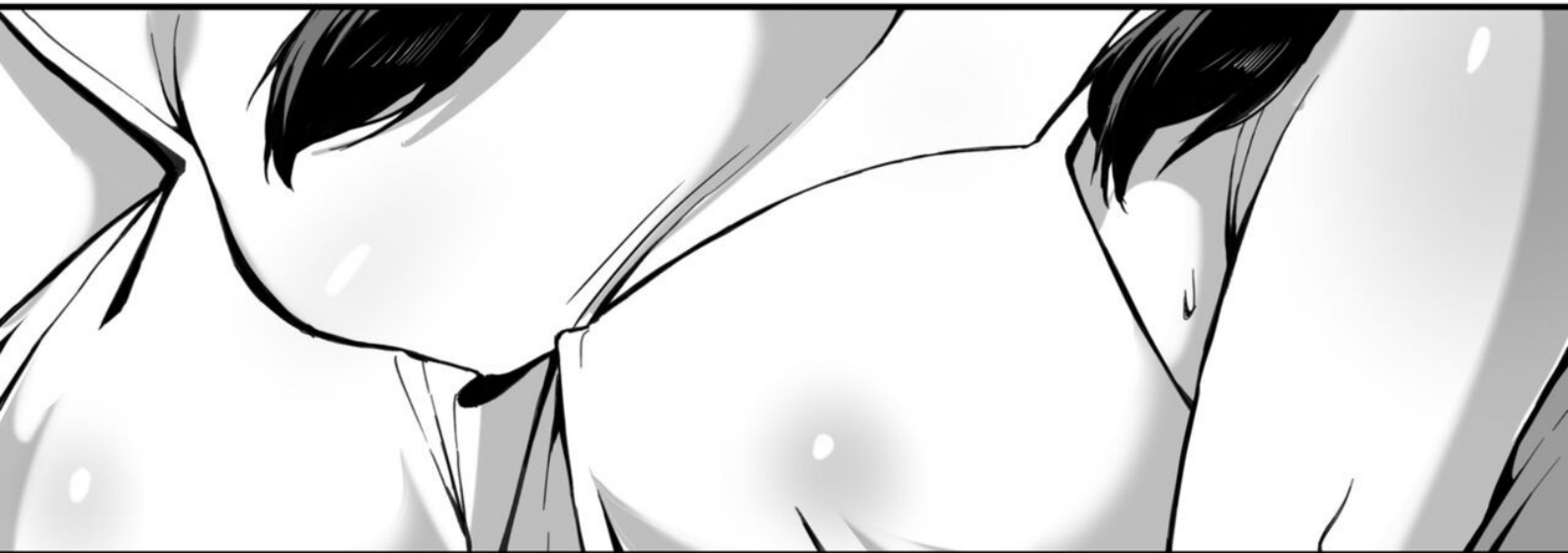


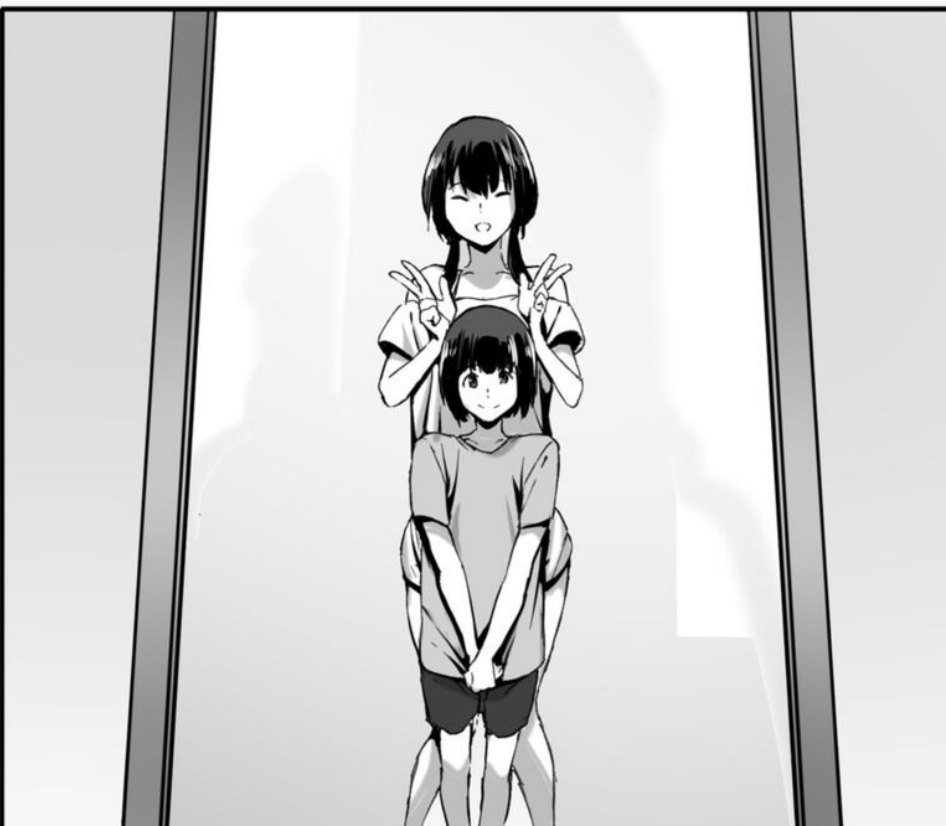
またやろう~

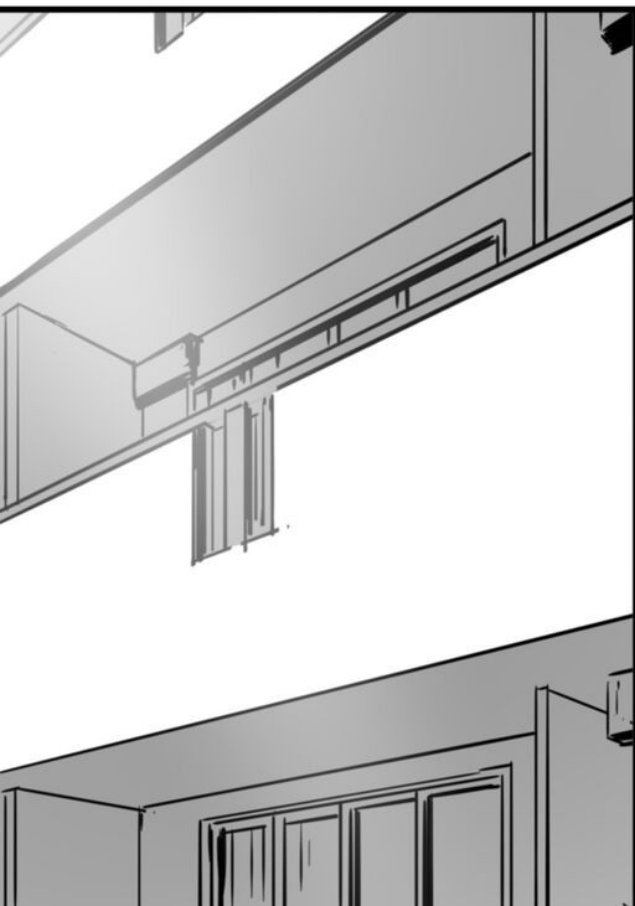
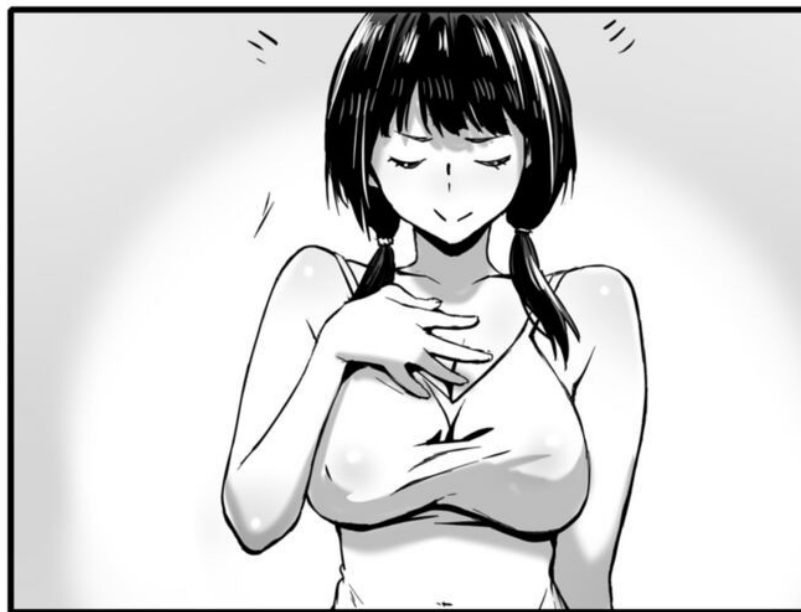
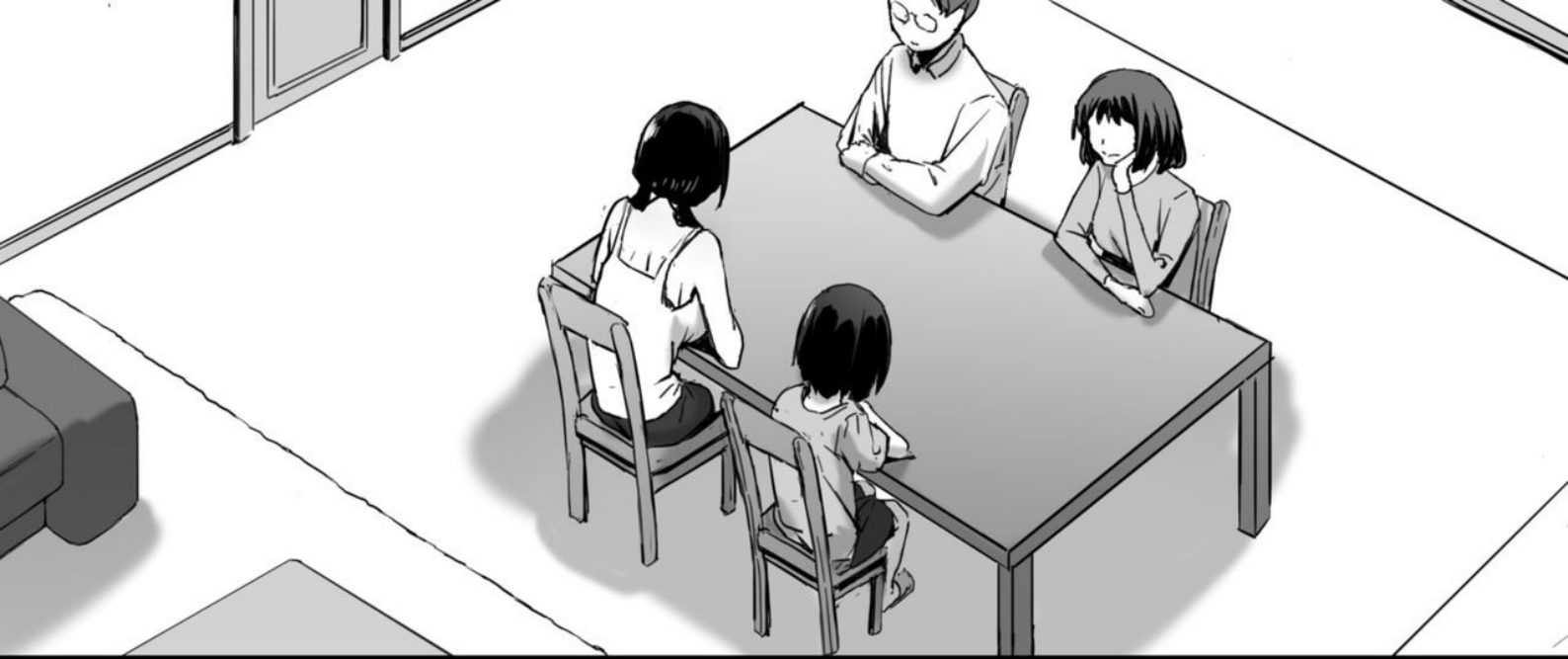














YOU DIE





